

「土砂のひ害を少なくするために」

まんのう町立仲南小学校 5年 藤保 翔太 さん

今年の夏は雨がふる日が多いです。その場にい続ける線じょうこう水帯によるごう雨、はんらんする川、土砂崩れによる寸だんされた道路、そして土砂におし流された家をニュースでみて自然のはかい力におどろき、人はどうする事もできないきょうふを、ぼくは感じました。

今年七月に静岡県熱海市で大きな土砂災害が発生しました。最多時間雨量は富士市で五十八ミリ、死者が二十二名、行方不明者はまだ四名見つかっていません。そんな悲さんな様子を見て、ひ害にあった人がとてもかわいそうだと感じました。テレビのニュースで情報を聞いていても、自分の家は大丈夫だと思い、ひなんがおくれて、ひ害が大きくなっています。ひ害を少しでも少なくするために何ができるのか調べてみました。

日本は国土の約七割が山地で大変険しい地形となっています。平地がせまいため、山のしゃ面や谷の出口など土砂災害の起こりやすい場所にたくさんの方が住んでいます。日本の雨は、一年を通して平均してふるのではなく、梅雨や台風などの季節にまとまって大量にふる特ちょうがあり、日本では土砂災害やこう水が起こりやすいのです。

土砂災害を完全に防ぐことは本当にむずかしいです。ぼくたちはひ害を少しでもへらすことを考えていかなければいけないと思います。

一つ目は、自分が出来ることをつねに考えておくことです。例えば防災グッズをじゅんびすることです。ぼくの家でもリュックに必要最低限のものを入れてじゅんびをして、すぐに持ち運べる所に置いています。

二つ目は、家族でできることです。日頃から家族で土砂災害について話し合っておく必要があると思います。災害が起きた時の連絡方法の確にんをしておくことも大切です。

三つ目は、身近な人と力を合わせることです。地いきや学校で行っているひなん訓練に参加して、ひなん経路やひなん場所を確にんしておくことが大切です。そうすることによって地いきの人にも自分のそん在を知ってもらうことにもつながり、いざという時助け合うことができます。

日本では、近年平均して千件を超える土砂災害が発生しています。自然災害による死者、行方不明者の内土砂災害が全体の約四割をしめていて、一度発生すると一しゅんにして多くの命や家をうばってしまうおそろしい災害です。災害にあわないようにすることは、むずかしいことかもしれませんが、それでも、少しでもひ害を小さくするために、今回学んだこと、自分が出来ること、家族で出来ること、身近な人と出来ることを日頃から心がけていきたいと思っています。